



京丹後に棲む
絶滅危惧種のハヤブサ

ハヤブサ

ニュース No.79

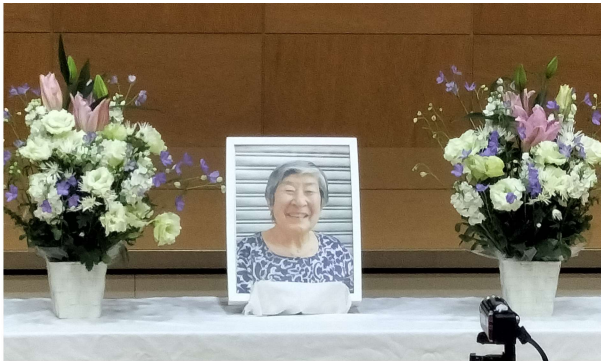
2022.12.16

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込座 00950-9-303127 名義 京都連絡会



福井きよ子さんの思いを つなぐ会に参加して 吉水律子

昨年、89歳で亡くなられた福井きよ子さんの「思いをつなぐ会」が命日の12月8日、ひとまち交流館にて75人の参加で行われました。

「No Base! 沖縄とつながる京都の会」をはじめ、「米軍 X バンドレーダー基地反対・京都連絡会」など10の活動団体と福井さんと個人的なおつきあいのあった方々、最期までお世話をされた方が福井さんの活動に関わる姿などの思い出を語り合いました。多くの人とつながり、多くの人に愛され慕われていたことを知り、本当にすごい人だったんだと改めて感動しました。特に戦争に対する強い反対の意思がどの活動にも表れていて、一貫した「戦争世代の責任」という姿勢を感じました。

そして、「本当に美しいもの、いいものを次世代に」つなぎたいという思いで生きてこられたと思いました。最後に、思い出の映像と川口真由美さんが福井さんの生き方そのもののような「わたしの道」という詩を歌ってくれました。なぜか福井さんがいなくなったという感じがしないのが不思議です。

12月例会は、「大ユンタク」へ

12月24日(土) 14:00-17:00 参加費2,000円(飲食付)

京都府部落解放センター大会議室 4F

プログラム 連帯挨拶・大城敏信さんオンステージ

主催 No Base! 沖縄とつながる京都の会

連絡先 増野徹 090-4643-2940 予約制 〆切12/20

「京都連絡会」の「12月例会」は、大ユンタクに参加。乞うご了解。

「街なかビラ」の報告と 今後のお知らせ (文責 白井) 11月の報告

第143回 11月15日(火) 百万遍9人

暖かい天候でした。15日は百万遍「知恩寺」の手作り市で多くの人出でした。他府県から来た人も多かったようです。今回から境内でのビラ配布は出来なくなりましたが、入り口ではよく受け取って貰えました。交差点周辺でも受け取りは良かったです。

<街の声>

- 「知らなかった。基地はいらない」(60代・女)
- 「いつも心配している。ご苦労さま」(伊根町出身・女)
- 「岩国にも基地がある」(岩国から来られた・男)～月末に岩国で反戦集会があることを話しお互いに頑張りましょうと～。
- 「米軍基地は反対だ」と自分から受け取って貰った人(60代位・男)

第144回 11月21日(月) 東寺さん周辺 4人

夜来の雨も止み、暖かい気温の日。縁日で人出も多くビラの受け取りもよかったです。

<街の声>

- 「桂駐屯地の近くに住んでいる。アンテナからキーンと音がすると猫が騒ぎ出す。X バンドレーダーはどう？」(50代位・女)～電波は海に向かっていて。京丹後では電磁波の被害は聞かないが、騒音被害がある。韓国では身体被害も言われているなどを話した～。
- 「沖縄の座り込みに行った。エイサーの仲間と」(30代位・女)



12月の予定

145回 12月16日(金) 出町商店街は終了です。

報告はハヤブサ1月号になります。

※ 来年1月の日程は決まり次第お知らせします。

連絡先: 090 - 5672 - 1597 (白井)

米軍関係者による人身事故 隠ぺいに抗議を！ 沖縄・東アジアと結ぶ反基地 ・反安保の闘いを！

池田たかね



11月8日夕方、米軍関係者による人身事故が発生した。京丹後市網野町三津で国道178号線を走行中の米軍属の通勤車が付近を歩いていた79歳の男性と接触、男性は救急車で市内の病院に搬送され、左目まぶたの怪我で手当を受けた。ところが近畿中部防衛局は当初、これを「軽微な物損事故」と報告し、20日後の11月28日になってようやく人身事故であったと訂正した。

現場で救急車も呼ばれているのに、誰がなぜそれを「軽微な」「物損事故」にすり替えたのか。米軍・防衛局の隠ぺい工作に断固抗議し、米軍関係者による交通事故情報の速やかな全面開示のルール化を要求すると同時に、この人身事故隠ぺい問題の事実経過を明らかにさせなければならない。

報道によれば、防衛局は11月30日に行われた「安全・安心連絡会」で、「受け身の対応を取ってしまった。今後は地元の声をしっかりと聞いていきたい」と述べたという。これまでの住民無視の態度を自ら認める発言だ。実際、防衛局は住民ではなく、米軍の側を向いて振る舞ってきた。

京丹後市の対応も「受け身」であった。人身事故であることが指摘されているのに、それを受けて事実関係を主体的に調査することを怠り、防衛局の「訂正」の後になって、ようやく「遺憾の意」（中山市長）を表明する。そのようなことでは住民の「安全・安心」を守るなどできない。

このような防衛局や京丹後市の態度が、米軍の横暴を助長させている。放っておけば、米

軍の都合、軍事がすべてに優先するあり方がまかり通ってしまう。それを止めることができるのは、地元宇川・京丹後の住民自身の声と行動だ。そのたたかいを京丹後・宇川の人々と共に、私たちはつくりだしていきたい。

今日進められようとしている日米両軍が一体となった戦争体制づくり、岸田政権による自衛隊の敵基地攻撃能力の保有と増税を伴う軍事費の大幅増額に向けた動きのなかで、京丹後・宇川の米軍 X バンドレーダー基地はますます強化されようとしている。沖縄の島々を戦場に見立てて実施された日米の一大軍事演習「キーンソード 23」の関連演習が宇川でも行われたことはそれを象徴している。

それは、京丹後・米軍 X バンドレーダー基地に対する闘いは、沖縄の状況、朝鮮半島・東アジアの状況と密接に関連しているということでもある。

そうした中で私たちは、京丹後・宇川の人々と結びつつ、東アジアの軍事緊張を煽る役割を果たしている米軍 X バンドレーダー基地に対する闘いを前進させることで、辺野古新基地建設との闘い、「南西諸島」での自衛隊配備増強に対するたたかい、あるいは韓国・ソソン里での THAAD 反対闘争など、全国・アジアで日々取り組まれている人々の抵抗と結びつき連帯していきたいと思う。岸田政権の戦争政策、日米安保体制の段階を画する強化を止める闘いを、米軍 X バンドレーダー基地反対闘争の現場から共に広げていこう。

12.11 「米軍基地いらんちゃフェスタin丹後 2022」参加報告

(文責：瀧川)



12月中にもいわゆる安保関連3文書の改定が行われようとしている最中での、いらんちゃフェ

「国家安全保障戦略」 三文書改訂を批判する!

スタ2022の開催となりました。京都からは、大阪からの参加者を含めてバスや乗用車で約40名が参加しました。バスでの参加者に配布された資料には、①対中国を念頭に、米軍と自衛隊の軍事一体化、自衛隊の敵基地攻撃能力の保有、5年以内の軍事費倍増など、日本の軍事政策が抜本的に変えられようとしていること、②日米共同統合演習キーンソード23、③経ヶ岬での基地警護訓練、④米軍属による「人身事故」を「物損事故」とした問題などの新聞記事の紹介と12月13日に予定されている京丹後市長宛の申し入れ書(資料)が配布されました。コロナの影響もあり、いらんちゃフェスタへの現地参加は2019年以来3年ぶりです。

丹後文化会館でのフェスタの前に、経ヶ岬の米軍基地・自衛隊基地を訪れました。米軍基地前では、「Xバンドレーダー基地を撤去せよ!」「東アジアの緊張を煽るな!」「米軍はアジアから撤退せよ!」と抗議、米軍基地・穴文殊のフィールドワーク、自衛隊基地前では、「南西諸島への自衛隊配備反対!」「レーダー基地はいらないぞ!」「ミサイル基地はいらないぞ!」とシュプレヒコールをあげました。丹後文化会館の駐車場への道を右翼の街宣車が塞いだため、参加が遅れました。ちなみに、彼らは今回、経ヶ岬には現れていません。

丹後文化会館でのフェスタでは、馬奈木弁護士土地利用規制法についての講演が行われました。講演では、この法律は作る理由がなく、調査や判断がすべて政府まかせであり、監視社会をつくる有事法制の一環であるとし、廃止に向けての提案がなされました。米軍基地を憂う宇川有志の会の永井友昭さんのパワーポイントでの現地報告では、①三津バイパスでの事故問題、②土地利用規制法問題、③発電機問題、④排水問題、などが報告され、これからの取り組みが提起されました。協賛団体の米軍基地いらない京都府民の会、米軍Xバンドレーダー基地反対近畿連絡会、止めよう!経ヶ岬の米軍レーダー・危険な戦争準備を許さない緊急京都府民の会から挨拶がありました。

参加者からは、バスで現地に行く機会を作ってくれたことに対する感謝、現地に赴いてみる大切さ、などの感想が寄せられています。

「国家安全保障戦略」三文書の概要 大湾

12/16、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の安保関連三文書が閣議決定される。これまでの日米安保ガイドライン改定と比較して今回の改定は確かに歴史的で質的な飛躍である。前号ハヤブサ 78号で示したキーン・ソード 23 が私たちに実物教育してくれた。ここでは紙幅の関係で批判を要点に絞ります。事実関係は新聞その他で補ってください。

岸田首相は、「安全保障環境が急速に厳しさを増す」と強調し、相手国の兵器の進化、変則で極超音速ミサイルは既存の防衛装備では抑止できない、発射点を攻撃する以外に方法がない、敵基地攻撃能力を保有する、それを具体する防衛費を5年間(23～27)で43兆円)、GDP2%(国家予算10%約11兆円)を確保する、と宣言した。又、防衛費増額で不足する財源、最低1兆円強を増税で賄うと決定した。

現行法人税に付加税として5%上積みして約7～8千億円、たばこ税値上げで2千億円、更に東日本大震災の復興財源として国民の所得税に上乘せした復興特別所得税(2.1%約4千億円)から防衛費として1%約2千億円を詐取すると決定した。これらを合算して不足分の約1兆円強を作り出している。期限付の法人税への付加税や復興特別所得税からのかすめ取りは恒久財源にならず「火事場泥棒」的な愚策である。

改定のポイント

- ①全ては安全保障第一で一元化(各省庁の連携と民間空港、港湾など施設・機能の安保への集約)
- ②産学官軍に自治体を含めた連携で一体化
- ③敵基地攻撃能力の装備(スタンド・オフミサイル トマホーク 潜水艦発射型ミサイルなど)
- ④現秩序防衛で日米、日韓、NATOなどの結束
- ⑤宇宙を含む「総合防空ミサイル防衛能力」
- ⑥沖縄の自衛隊旅団⇒師団へ格上げ
- ⑦防衛装備移転三原則の緩和による防衛産業の育成…2014年武器輸出三原則⇒防衛装備移転三原則運用指針見直し…武器輸出相手国の抑止力強化(軍拡)が日本の安全保障の改善に資すると判断した場合武器輸出を認める。

野党の翼賛化 自民単独では何もできない

読売新聞の世論調査で52%が敵基地攻撃、防衛増税賛成、国債賛成である。公明、維新、国民民主も翼賛化に走り、立憲民主もつづくだろう。政府の強気の背景だ。

キーン・ソード23と国家安全保障戦略の具体化

対中の戦略上、国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画に示される敵基地攻撃能力の「部隊・装備・そのための基地建設や予算」の大部分は沖縄・南西諸島に集中する。

「安保で雁字搦め」の沖縄・南西諸島の抵抗

沖縄では、重要土地規制法、沖縄振興費など全て「安保に資する」とタガがはめられている。

与那国、新石垣、宮古、いずれの民間空港も F35 戦闘機が離着陸可能にするため 2000m の滑走路の延伸と甲板の耐熱補強が施される。

与那国に護衛艦(軽空母)や大型巡視船接岸可能な約 250m の岸壁と深水確保のため掘削。

石垣港や平良港に自衛隊や海保の補給施設建設。那覇空港は軍民共用しているが自衛隊機が利用しやすいように滑走路に向かう誘導路を増設。12/11 宮古島・下地島空港で沖縄返還時の「屋良覚書」(下地島空港の軍事使用禁止)違反のブルーインパルス(曲芸飛行隊)が実施された。

自衛隊施設改修に建設国債 1 兆 6 千億円。沖縄南西諸島では必死の戦いを繰り広げている。

米軍再編で沖縄から米軍の撤退が始まった。

グアム基地、2024 年から沖縄海兵隊 4000 人受け入れ可能と通告。米軍嘉手納基地から F15 50 機撤退。代わりにアラスカ基地から F2 ステルスが循環パトロールで飛来・常駐なし。

何故、改訂が必要なのか 中国は脅威か

一橋大の野口悠紀雄教授は、日米中の購買力平価の GDP 比較では、2000 年に中国は日本に追いつき、2010 年には 5 倍近くに、2060 年には約 10 倍近くに達すると述べている。米中の関係でも 2020 年には中国が米国の GDP を追い越したとある。この中国の経済成長が米国はじめ「西側諸国」の「既存の秩序」を脅かしているという代物である。特に、台湾有事を煽り立て東アジアの軍事的緊張を作り出し、ASEAN 諸国を「西側陣営」に取り込み、中国の「一带一路」から切り離し、中国の世界経済覇権を阻もうとしている。日本政府は、中国の海洋進出や軍拡、東アジアにおける既存の秩序を「力による」現状変更と批判し、台湾の武力統一の可能性などを挙げ、東アジアに戦争の危機を作っていると、と煽って敵基地攻撃を正当化しているがこれは詭弁である。

世界経済覇権を巡る米中経済戦争が戦争原因

中国の「一带一路」経済構想は、中国の GDP、学力・技術(特許、学術論文、AI、宇宙ステーション開発)などに支えられた実力を示しており、米国に替わる世界経済の覇権をうかがっている。

中国の海洋進出が問題視されているが、中国にとって東アジアの海域は公海であり、玄関であって、1 万数千 km も離れた米国や NATO 諸国が東アジアに出入りしているのに中国の海洋進出に異議を唱える筋はない。(ストックホルム国際平和研究所発表によれば)中国の軍事費は 2021 年度で 2523 億ドルで GDP で同程度の米国の 7782 億ドルの 1/3 でしかない。日本が 491 億ドル。(GDP2 %になるとこれまでの二倍、年間約 980 億ドルで中国に次いで世界第三位の軍事大国になる)。

空母の数、核弾道の数も米国が圧倒しており、*中国の軍事的脅威*は米国も考えられていない。

更に朝鮮のミサイルは、米国本土に達する「火星 17 号」が成功し、ロシアのウクライナ侵攻。

これら国際環境の激変は、日米安保、米韓同盟、更に NATO による「東方拡大」がもたらしたものであり、米日、NATO が共謀した中国・朝鮮・ロシアへの軍事的威嚇・経済的封鎖が呼び起こしたものである。

玉城知事が「南西諸島への自衛隊配備」容認。

南西諸島における自衛隊配備強化の動きを巡り、県議会で自民県議の質問に答えて玉城知事は「十分に住民に説明し、かつ、米軍基地の整理縮小を同時に進めることで結果的に基地負担の軽減につながるということであれば、その方向性は認められるのではないかと答弁した。

この「沖縄第一主義」は認められない。沖縄の人々は「キーン・ソード 23」に反対し、「沖縄を再び戦場にするな」の声を上げ、自衛隊の南西諸島への配備に抗議し、撤廃を求めた。この動きこそ全島化しなければならない。

政府の国家安全保障戦略と厳しく闘おう！

人々は「軍事的手段」はダメで「平和外交」だと訴えている。しかし、大衆的な国際連帯運動抜き「外交」は、政府への「尻押し」「丸投げ」であり、解決になりえない。また、私たちは、国家間の対立にいずれの国にも与しない。

今こそ日本政府の国家安全保障戦略に対決し、「反戦・反基地・反安保」の闘いを全国統一闘争と形成し、東アジア民衆との国際連帯こそが真の平和を闘い取る展望を切り拓く。

2023 年度は、改めて反安保・改憲阻止闘争の幕開けの年としよう。団結・連帯して前へ！